

てく的生活 入門 高齢者をシステムで見守る

離れて暮らす老親のことが心配だけど、頻繁に連絡したり帰省したりするのは難しい。そんな人にとって便利なのが、高齢者向けの見守りシステムです。親の自宅に専用機器を置いたり、小さな端末を持ってもらったりするだけで、安否を確認できます。親自身が緊急通報することもできます。

2020年に65歳以上の男性の13.9%、同じく女性では21.9%が一人暮らしになると、内閣府の調査は予想しています。その子ども世代はまさに働き盛りで、離れて暮らすこともしばしば。老親のケアに手が回らないこともあるでしょう。

こうした人たちのニーズに応えるため、ハイテクを活用した便利なサービスが数多く登場しています。各種のセンサーを搭載した機器をお年寄りの自宅に設置したり、小型の専用端末を身に付けてもらったりすることで、自宅の環境や安否、居場所などを確認できます。お年寄りが困った時にボタンひとつで親族や警備会社に緊急通報できるサー

ビスもあり、親子それぞれが安心できます。

人感センサーを搭載したシステムは、人の動きを感知するので、一定時間を超えて生活動作が確認できない場合などに、家族へ連絡が入るように設定できます。

また、気温や湿度、部屋の明るさを確認できるタイプもあります。気温や湿度からは、夏場なら熱中症や脱水症の危険がないか、冬ならば寒すぎる環境でないかをリアルタイムでチェックできます。また、照度計で明るさを把握することで、就寝や起床などの生活サイクルを確認できます。認知症の症状のひとつ「昼夜逆転」の兆候の早期発見にもつながります。

スマホでいつでも安否を確認

子ども側のスマートフォンでこれらの情報を確認できるサービス「いまイルモ」を提供しているソルクシズでは、認知症の徘徊対策にも活用できるドアセンサーや、ベッドで寝ている間に脈拍や心拍を計測するベッドセンサーといった新機能も開発中だそうです。今後、一層のサービス充実が期待できます。

また、安否確認に加えて、コミュニケーション機能が付いたサービスもあります。インタープロの「みまもりステーション」は、お年寄り宅に設置する端末に伝言を送れます。伝言を受けとったお年寄りは、ボタンひとつで内容を表示できます。機械の操作や文字入力力が苦手でも、画面に表示されるマルやバツをタッチすることで「はい」「いいえ」などの気持ちを簡単に伝えられます。あらかじめ用意された「すぐに連絡ください」といった定型文を選んで、自分か

ら連絡もできます。

ALSOKの「まもるっく」は、お年寄りに専用端末を屋外で携帯してもらうタイプのサービスです。位置情報を調べられ、緊急通報ボタンも付いています。転んで動けなくなった時、状況を感じて自動通報する機能もあります。

こうしたサービスは便利な反面、「まだまだ元気」と自負する親世代には抵抗を感じる人もいられるでしょう。子どもから利用するように勧められても拒否したり、プライバシーが問はけにったりすることを心配するケースもあるようです。

勧める側も「一人では不安だろう？」といった一方的な言い方では反発を招きやすいので、あくまでも「自分が心配だから」という姿勢で説明するのがコツのようです。実際に使い出せば、親自身が安心を実感してくれることもあるようです。

(ライター・森田悦子)

高齢者見守りシステムでできること ※サービスにより、内容は異なる



主なサービス

いまイルモ

ソルクシズ

2760円～

センサーがお年寄りの室内での居場所やトイレ回数、温度、湿度などを感知。専用のスマホアプリでリアルタイム表示できる

家の中で

みまもりステーション

インタープロ ¥1000円～

安否や室内の環境のほか、お年寄りも簡単な操作で伝言の送受信が可能。専用の血圧計で計測したデータを家族が確認することも可能

家の中で

まもるっく

ALSOK ¥1100円～

位置情報も取得できる専用端末が転倒を検知し、自動通報する機能も。ガードマンの駆けつけ(有料)も依頼できる

家の外で

つながりほっとサポート

NTTドコモ 無料

お年寄りが一日で最初に携帯電話を操作した時など、家族に自動メールを送信。歩数や電池残量なども定期メールで報告される(利用は対応端末のみ)

郵便局のみまもりでんわ

日本郵便 ¥980円～

毎日同じ時間に自動電話を発信。お年寄りが録音メッセージに従って体調を登録すると、家族にメールで報告される